

軍審發第一二三號

航空器材假制式制定ニ關スル件覆申

昭和十年十一月十六日

陸軍軍需審議會長 古 莊 幹

陸軍大臣 川 島 義 之 殿

左記航空器材假制式制定ニ關シ別冊ノ通審議決定セシニ付覆申ス

左 記

- 一、九五式戦闘機假制式制定ニ關スル件
- 二、九五式偵察氣球假制式制定ニ關スル件
- 三、陸軍航空本部器材研究方針中改訂ノ件

百三九



(小冊又七印行)

# 説明ターゲット

次の原稿

不鮮明

1032~1083

3年10月8日

主務者又は

撮影立会者

加部東保夫



1032

第十二回陸軍軍需審議會議事録

昭和十年十月二十九日  
陸軍軍需審議會

第十二回陸軍軍需審議會議事録

一、日 時

昭和十年十月二十九日午後一時開會

同 年十月二十九日午後三時五十五分閉會

二、場 所

陸軍航空技術研究所

三、議 題

1. 九五式戦闘機假制式制定ニ關スル件
2. 九五式偵察氣球假制式制定ニ關スル件
3. 陸軍航空本部器材研究方針中改訂ノ件

1033

## 四、出席者左ノ如シ

委員長	陸軍次官	古莊幹郎
陸軍航空本部總務部長	牧野正迪	
同 第一部長	木下敏	
同 第二部長	中川泰輔	
陸軍航空本廠長	長嶺龜助	
陸軍航空技術研究所長代理	香積見彌	
陸軍省軍需課長代理	吉田喜八郎	
同 兵務課長代理	高田清秀	
同 動員課長代理	山田清一	
同 器材課長	秋山德三郎	

五、議事ノ經過左ノ如シ

參列者	陸軍省整備局長	山岡重厚
同	兵器局長	多田禮吉
幹事長	同	統制課長
同	同	木村兵太郎
幹事	同	統制課員
同	同	西村乙爾

## 陸軍軍需審議會委員會議事録

昭和十年十月二十九日

於立川陸軍航空技術研究所

會長

それでは唯今から會議を始めます。此度不肖私が軍需審議會の會長に任命せられました。就きましては臆はずながら閣下並に各位の御協力に依りまして其の任務を完ふするが如く努力致しまする覚悟であります。

扱本日は新戦闘機、新偵察氣球の仮制式の制定並航空本部器材研究方針の改訂に關しまして審議を願ひたいと思ひます。審議に先だちまして先づ野外に於きまして實物に就て供覽、説明を致させましたる上に再び本講場に歸りまして審議をしたいと思ひます。

(實物供覽)

(再開)

會長　それでは唯今から新戦闘機の仮制式制定に關する審議を願ひます。詳細に就きましては幹事長其の他をして説明致させます。

幹事長　申上げます。議題第一、第二、第三に關しまして去る二十四日關係幹事慎重審議の上議題第一、第二に關しましては仮制式として異論なく、又議題第三に關しましても、異論御座いませぬ唯議題第一、第二に關しまして希望條件を致しまして將來に於きましては更に徹底的に實用試験をして載きたい。斯う云ふ一二の意見が御座いました。其の他私より申上げることはありません。現地



に於ける説明以外に補償的説明が御座いましたならば御願ひ致します。

牧野少將

補償的と申しますか、委員と致しまして一寸附加へま

するが過般佛蘭西で一番良い、昨年度に於て一番良いといふドウボ  
アチンのデーといふ戦闘機を買ひまして其の受領試験を致しました  
其の飛行機は受領致します前に於きましては四百五斤出るといふこ  
とでし御座いましたが、實際此方で試験をして見ますといふと一番  
良い所で三百七十五斤しか出ないのであります。それはそこに書類  
を御上げてありますから一々對照して御覽になれば判りますが、  
上昇能力に於きましても唯今御覽になりました新戦闘機に比較して  
ドウボアチンのデーの方が餘程劣つて居ります。一般に外國の飛行

機は優秀だ優秀だといふことは屢々吾々の耳に入りますがそれは所謂商業的の誇大な宣傳だといふやうな感が多いのであります。實際はそれ程は出ない。之が普通だらうと思はれるのであります。其の外アメリカの有名な重爆のマルチンでも佛蘭西で實際買つて試験をして見ましてそれをカタログに載べますと遙かに性能が落ちてゐるのであります。さういふことを附加へて置きます

其の他小さいことでお躓ねになることが御座いましたならば私共航空本部の直接の擔任者と致しまして御答へ致します。

清水大佐　　速度があまり大になりますと戦闘の際に射撃に困るこ  
いふやうなことをよく聞いたことが御座いますが、さういふことは  
ありませんか。

幹事長

質疑は一應説明をしてから改めてして戴きます。

會長

説明されることかなければ質疑に掛りませう。

松岡中佐

松岡から一寸御説明申し上げます。九五式の説明に關し

まして色々表がありますが旋廻性といふことは少しも説明してありませんが旋廻性といふことは戦闘機に必要なことでありますから其のここを一寸申し上げます。九五式戦闘機は三百六十度の旋廻、之が八秒、うまくいつた時には八秒、平均が八秒半の旋廻性能を持つて居ります。此の旋廻性能は空中戦闘には非常に必要なことであります。恰度デウボアチンの飛行機に私は一寸乗つて見ましたが随分旋廻性は悪いやうであります。倍以上掛るやうであります。中島の試作戦闘機、之は随分良くした所で以て十一秒かゝる。それに對して

川崎の九五式の方は八秒半、よくいつた所で八秒であります。尤も八秒で廻ると操縦者は若干目が眩む。それだけ一寸附加へて置きます。

會 長 説明がなければ質疑に移ります。

清水大佐 先刻質疑の點は如何ですか。

松岡中佐 松岡から申上げます。速度の増大に因つて射撃が困難

になるといふ問題は旋廻性能か射撃能力に關係するので或は此の觀念で斯様なお考へが付いたのではないかと思ひます。

勿論、固定機銃の射撃は速度の増大に伴ひ、射撃時間が若干短縮することは事實であります。それは目下の處にては不問に付して差支ありません。従て、直線射撃に於ては、速度増大は影響しない

さいひ得ると存じます。但し、旋廻性は速度の増大に伴ひ低下致す傾向がありますから、旋廻しつゝ行ふ射撃は速度の増大に従つて、困難になる傾向にあるさいふことはいひ得ると思ひます。

清水大佐

その實驗はもう御済みになつたのでありますか。

松岡中佐

やつて居ります。

木下大佐

松岡君。君は審査の時九一をやつたらう。九一の出来

上つた時の彈丸の中り方と今のやつとの違ひ。それに就て感想だけ一寸言つて呉れ給へ。

松岡中佐

前の九一式戦闘機の審査の時には私も矢張り審査員に

なつて居りました。あの飛行機は甲式四型に比較して速度は出て居ましたが飛行機の振りが非常に悪い。それはあまりに鋭敏の

爲か速度が出て来る。頭をふり出すといふやうなことで非常に困りました。のみならず九一の方は少し旋廻して射撃をするといふ時には辻りが起ります。それが爲に相當射撃性といふ所で問題が起りまして明野飛行學校で射撃性といふことで大分制式として頂くといふことを漕つたのであります。けれども尾翼の改修等でそれは大分良くなりましたが依然として速度増大に伴つて頭を振つて来る。つまり据りが悪い。それ等の點が今度の九五式の方は少しもありません。射撃性一點張りでいきますと、一寸言ひ過ぎるかも知れませんが、單に直進して射撃するといふだけならば中島式の方が良いのであります。之は反對に少し方向を變へて捻つて射撃をする時には辻り川崎の方は直進に於ては少し中島より劣るやうでありますけれども

旋廻して射撃をするといふ時に送り不起りません。結局さういふ點が九一式及中島式よりも九五式の方が優れてゐる。それ等の點から速度増大に伴ふ射撃困難といふやうなことが出て來たのではないかと思ひます。終り。

清水大佐　もう一つは小さい質問であります。プロペラーが三つになつてゐる關係か知りませんが射ち抜くやうなことがある。あれは今後研究するといふことでありましたが、それは何でもないのでありますか。

松岡中佐　松岡から申し上げます。あのベタの角度は百二十度になつて居ります。一番初め射ち抜きましたのは聯動機の機能が運動してゐる場合に何といひますか眞空になるか、或は油が溜つてそれで

十分動かなくなつたといふやうな關係で、さういふ眞空さか或は油の壓を加へるといふやうなことのないやうに改造しました。それで好かつたのでありますが、その次に來ましたのは明野の學校でペラの後縁で以て合すと次のペラに來る迄の間に角度が少し、かありませんから此の角度を増す爲に撃發を前縁に合してやつて見やうといふのでやつて見た。そして八百廻轉以下では危ないといふのに射つてしまつた。それは地上の目標を射撃するといふので、地上目標を射撃する時には速度を減じて、廻轉數を減じて射撃姿勢に遁入つて來ます。それがまだ出ないうちに遁入つて來て射ち抜いてしまつた。三回目に射ち抜いたのは前縁に合はしてはいけな。矢張り後縁にしやうといふのでやつたのが此の聯動機が前後に動く。それを前後



しないやうに發條に押されて返る。その發條が一ミリ半短かつた  
 而も弱かつた。それを射ち抜いてから發見したといふ譯で總て射ち  
 抜いた原因が明瞭になつて居ります。それさえなければ射ち抜くこ  
 いふことはないといふ自信を持つて居ります。尙聯動機そのものも  
 まだ改善すれば良くなると思ひますが現在の條でも差支ないと思  
 ひます。射ち抜いたといふのはさういふ明瞭な原因がありますから  
 差支ないと思ひます。

清水大佐 外國の飛行機の中にはプロペラーが三つになつてゐる  
 ほか二つになつてゐるほかいふことの調査は御座いませんか、矢張  
 り三つのプロペラーも津山あるのでありますか、斯ういふ戰國機な  
 んかに。

松岡中佐

あります。

清水大佐

質問は終わりました。

會長

外に質問はありませんか、質問がなければ御意見の開

陳を願ひます。

清水大佐

もう一つ質問しても宜しう御座いますか。本飛行機に

就て此の點を研究改善しなければならぬといふやむなことは御座い  
ませんですか。

牧野少將

それはいつもですが、一度制式になりましたも僅かの

部分の手直しをやつて見て之がよいといふことは絶へず努力して改

修するやうにして居ります。それは從來のものでも、九一でも……

清水大佐

いや今差當つて此處の所は例へば北滿にいつてやらな

ければならぬといふやうな點は御座いませんか。

牧野少將

今の所は御座いません。

清水大佐

判りました

牧野少將

一寸附加へますが今の滿洲の耐寒といふやうなことに就てパイプに布を巻附けるといふやうなことはやります。

清水大佐

幹事會に於てさういふ點に就て一二質問があつたといふことではありますがそれは何か抽象的なことですか。

幹事長

將來更に徹底的に實用試験をやつて戴きたいといふことです。

清水大佐

その動機です。

幹事長

それは行動半徑です。茲に書いてありますやうに「行

動半徑は二五〇呎にして行動の爲概ね三〇分の餘裕を有す、尙燃料を滿載したる場合は四〇〇呎に延長するを得、それをもう少し徹底的に試験して貰ひたいといふやうな話がありました。が仮制式としては今迄の實驗の範圍に於て決して異論はないといふことであります。

會

長

御意見はありませんか。

(發言者無し)

ないやうでありますれば此の仮制式は御同意のものご認めて決定したいと思ひます。

次は議題第二の新偵察氣球の仮制式制定に關する審議を願ひます。先刻現地で説明がありました。が尙其の他に説明されることがあります。

すならば説明を願ひます

牧野少將

此の九五式偵察氣球は九一式に比して總ての點に於て

人員なり車輛數なり大體に於て三分の二位で行く見當でありまして最も不利と思はれるのは將來偵察教育をします上に於て一人乗であるが故に教官が同乗出来ないといふことが一番問題になることではないかと思ひます。之に就きましては、それは相對的のものではない。更に更に方法を研究しますれば一人乗りでも教育は出来るといふ信念を持つて居ります

木下大佐

其の教育の關係に就て大體地上のものに對する教育は

一人乗でなく二人乗でも同じであります。が初步教育としましては二人乗を便とする。但し二人乗でない航空勤務員の教育は山上演習を

やる。其の後

氣囊の上に乗つて行くのでありまして斯ういふことをやつて行けば  
 縱令二人乗でなくても初歩でも出来ると思ひます。之を極端にいへ  
 ば戦闘機の如く一人で乗らなければならぬものは現に一人でやつて  
 ゐるのでありますから教育が出来ないといふことは絶対のものでは  
 ないと思ひます。工夫すればいくらでも方法はあると思ひます。

會長

外に説明はありませんね。それぢや質疑に移ります。

清水大佐

現制式に比較しまして降下速度はどれ位差が御座いま

すか。

飯島少佐

飯島少佐からお答へします。降すことに於きましては

全速降下の速度は大差あります。

清水大佐　　もう少し早くなりませんか。今見た感じもさう感じたのでありますが。

飯島少佐　　降す速度を増大する爲には繫留索を強くすれば速度は出るのであります。さうすると氣囊の方の特殊の装置をしなければ無理であります。氣囊に或る傾きを與へて安定してゐるのが動搖が激しくなります。従て如何なる天候に於ても大速度で降す爲には特殊の考案をしなければ出来ません。

林大佐　　本日の降下速度は彼處で指揮官のいふのを聞いて居りましたが高速の時には發動機が止つて行かなかつたやうであります。途中で平速の號令をかけて居りました。従て本日は平速の降下をやつたのであります。終り。

清水大佐

それは一時的の故障ですか。

林大佐

さうであります。

小久保少佐

故障の原因を申し上げます。本日参りました気球隊の人員は今迄あれをやらなかつた兵でありまして發動機の温度が上らないのを気がつかないでやつて居りました。發動機の温度を上げまして降して何等異常ありません。従て本日使用しました兵はあの氣球に就きましては見ることは見て居りましたが使つたのは初めての際が使つて居りました。

會

長

質問がないやうでありますから御意見を願ひます。

(發言者無し)

別に御意見もないやうでありますから議題第二は御認めになつたも



のとして可決致します

次は議題第三の審議を願ひます。先づ之に就きまして主任者からの説明を願ひます。

牧野少將

器材研究方針の改訂に關しまして主なる問題になりま

したのは目下航空關係觀察團が歐米に派遣して居りまして、それが相當の材料を持つて歸るからそれ迄待つてやつたらどうかといふことが一つの問題となるのでありますが、今度の改正は研究方針全部ではありませんので、其の中の一部で御座います。即ち爆撃機、偵察機で御座います。之は過般參謀本部からも御要求がありました、斯ういふことをやつてくれといふ御方針に則りまして殆ど其の通りに致したといつてもよい位であります。今申しました航空觀察團の

持つて歸りました。收獲の利用は恐らく器材方面の小さい部分である。とか或は今迄決つた飛行機以外に特種の飛行機を必要としやしないか、さういふことが主なことではないかと考へますから今の研究方針を改訂致しましても何等差支ない問題であります。もう一つは重爆の携行爆弾量を減すのはよくないと思はれるのであります。成るだけ餘計持つて行けば宜いので御座います。目下世界の趨勢は爆撃機も成るだけ速度を増大して、敵の戦闘機にやつつけられないやうに速度を増して目的を達するといふ傾向がありますので、携行爆撃弾量一噸を七百五十疋に減しましても速度を増大する利益の方が多いと思ふのであります。併しそれも全然積めないのではありません。行動半徑を少くすれば一噸は積めるのであります。之も先刻申しま

した通り各國の飛行機が非常に爆弾を澤山積んで非常に遠い距離を非常な速度で行くやうで御座いますが、アメリカの有数の爆撃機のマルチンの一例を以てしても多少懸値があるといふ感が發しますので、縱令爆弾量を減しましても吾々は得る利益の方が多いと考へてゐるのであります。須永少佐マルチンの諸元を具體的に説明してくれませんか。

須永少佐　御説明申し上げます。御手許に差上げてあります重爆撃機性能表の米國といふ欄があります。その米國の飛行機の中にマルチン機といふのがあります。之は非常に優秀であるといふ評判の高い飛行機であります。それで從來アメリカでは何處の國にも出さない。何處の國にも賣らないがフランスだけに賣つたのであります。

其處に性能が載つて居りますやうに水平速度が三百五十四斤爆弾の搭載量が一千四百斤といふ風に出て居ります。之を見ますと非常に優秀であるといふ評判を裏書致しまして非常に良好に見へるのであります。之をフランスで買ひまして、さうして自分の處で造りましたブレゲーの四百六十型と比較致しましたのが別の表であります。之はフランスで翻べたものを駐在官が報告したもので相當正しいものさ考へて居ります。それに依りますとマルチン百三十九といふのが代表機であります。實物は同じであります。それで之が爆弾量一噸を搭載した場合に最後の性能といふ所に時速二百九十斤、此の二百九十斤の速度で九百斤の行動距離であります。従て之の行動半徑は四百五十斤といふことになりまして外に餘裕はないといふことに

なります。従て唯今航空本部の研究方針に掲げました七百五十磅の爆弾を積んで行動半徑が六百斤、更に一時間の餘裕を持つ。又行動半徑を五百斤にした場合には一千磅になるといふことになります。前述マルチンの數字を遙かに越してあるのであります。大體斯ういふ早い性能の飛行機は先づ此の位の數字が手一ぱいではないかと、斯ういふ風に考へてゐるのであります。

會 長

説明は全部やつて戴きませう。

牧野少將

それでは議案第三の初めからやります。

重爆撃機

- 「主トシテ威力ヲ要スル目標又ハ重要施設ノ破壊ニ用フルを
- 「主トシテ敵飛行場ニ在ル飛行機並ニ諸施設ノ破壊ニ用フル

之は飛行場に在る施設は限らないのであります。總ての諸施設の破壊に用ひる。次に

「爆撃能力大ニシテ相當自衛火力ヲ有シ特ニ速度ヲ大ナラシム」  
速度を大にするといふことは先きにも説明致しました通り成るだけ速度は大なるのが宜しいのであります。さうするに無防禦でよいかに考へます。けれども戦闘機のやうな速度を出す譯には行きませんから矢張り自衛火力を持ちまして速度を成るだけ大にする。さうするに行動が容易になりましたして戦力の増大を圖り得るに考へます。のみならず爆撃機は夜も驚も編隊を以て集團的の威力を發揮する必要がありますので之が爲にも速度を大にし輕快でないにその運動性がうまく行きません。次は

「行動半徑カ標準爆彈ヲ携行セルトキ少クモ六〇〇斤トシ尙行動ノ爲約一時間以上ノ餘裕ヲ存シ爆彈ヲ携行セサルトキ約一〇〇〇斤トス」

之は從來のに依りますと

「行動半徑ハ標準爆彈量ヲ携行セルトキ少クモ六〇〇斤トシ尙行動ノ爲一時以上ノ餘裕ヲ存シ爆彈ヲ携行セサル時ハ約一〇〇〇斤トス」

之は全く同じであります。次の

#### 爆彈搭載量

「七五〇斤ヲ以テ標準トシ五〇〇斤以下ノ爆彈ニ在リテモ爲シ得ル限り搭載効率ヲ大ナラシム」

七百五十疋といふのは成るだけ多いのが宜いのでありますが、速度の關係上此の方を標準にした方が有利であるといふことで七百五十疋を標準に致しまして五十疋以下の爆彈でも持てる

「但シ行動半徑五〇〇軒以下ナルトキハ所要ニ應シ彈量ヲ一〇〇〇疋ニ増加シ得シム」

之は油が減りますから一千疋になる譯であります。

常用高度

「二千米乃至四千米トス」

戦闘機と違ひましてさう高い所を行動するといふ必要は先づないかも知れませんが、それが爲に非常に油を食ふとか其の他設備上に影響を及ぼしますので、自衛上高く上られる時には一層高空に上られ



るやうにしよう。さいふのであります。

主要装備

「旋回機關銃三、

但シ内一ハ旋廻機關砲ニ装備シ得ル如ク努ムルモノトス」

無線装備 一式

寫眞装備 一式

但シ爆彈ノ一部ト交換装備ス」

寫眞機が要らないといふやうな場合には寫眞の機軸の重量だけ爆彈に置換へ得るやうな装備に致しまして、前と大體變りは御座いませ

ん。  
輕爆機

「主トシテ敵飛行場ニ在ル飛行機並ニ大ナル威力ヲ要セサル諸施設  
ノ破壊ニ用フ

單發動機型飛行機ニシテ速度甚大水平及急降下爆撃ニモ適セシム  
從來は編隊の場合双發動機のものゝ單發動機のものゝ混用して居つ  
たのであります。所が此の兩者を混用致しますることは從來は水平  
爆撃といふことを獎勵して居つたのであります。が急降下爆撃といふ  
ことが非常に適切である。機宜に應じて瞬間的に急降下をやる場合  
には兩方の混用では非常に難しいのであります。目下の技術と致し  
ましては双發動機では比較的急降下は困難であります。又高速度を  
出します場合にも單發動機の方が空氣抵抗が少くて宜いのでありま  
す。それが單發動機型の飛行機にする理由であります。

「行動半徑ハ標準爆彈量ヲ搭載セルトキ少クモ五〇〇杆トシ爆彈量ヲ減シタル場合六〇〇杆ニ延長シ且ツ何レノ場合ニ於テモ行動ノ爲一時間ノ餘裕ヲ有セシム」

之は從來のは標準爆彈量を搭載せる時は四百杆であつたのであります。爆彈を携行しない時で概ね六百杆、何れの場合でも行動の爲に一時間の餘裕を得るといふことになつて居ります。夫は

常用高度

「二千米乃至四千米トス」

之も從來と同じやうであります。

主要裝備

從來は双發動機と單發動機に依つて銜數の差があつたのであります。

双發動機に於きましては旋廻機關銃が二、單發動機は旋廻が二と固定が一でありました。今度は

射撃裝備

固定機關銃

旋廻機關銃

無線裝備

寫眞裝備

之も從來通りで御座います。

偵察機

「從來ノ偵察機ト同目的ノモノナルモ特ニ遠距離搜索ヲ主任務トス

ルモノ」

従來は「主トシテ搜索ニ用フ」といふことであつたのでありますが、今度は「特ニ遠距離搜索ヲ主任務トスル」といふことにしたのであります。之を更にいひますと

「主トシテ搜索ニ用ヒ又輕爆擊機ニ代用ス

輕爆擊機ト同一型ニス

行動半徑ハ輕爆擊機ニ同シ

爆彈搭載量ハ概ネ輕爆擊ト同一ナラシム」

之は多少飛行機の使用が空軍的になりました。従來のやうに何でも地上部隊の要求に基て運用をすれば宜いといふ觀念から延びて相當の空軍を持つて居りますから空軍的の戦闘をしなければならぬといふので遠距離搜索もやれば輕爆と同じやうな爆擊もやらさうといふ

主義で書いてあるのであります。それから主要裝備之も從來のもの  
と殆ど差は御座いません。もう一つの偵察機と致しましては、第一  
線部隊に直接協力をする。從來飛行機の兵力の少い場合には殆ど直  
接協同と遠距離搜索を兼ねて居つたのであります。が今度は從來のや  
うに直接協同をする場合之に必要な指揮連絡及砲兵協力に使ふに適  
當な偵察機を研究せんとするのであります。従て小型機で空地に於  
ける運動が輕快で而も戦線附近の簡單なる着陸場でも離着陸が出来  
るやうにする。従て行動半徑は二〇〇軒を標準とし概ね一時間の餘  
裕を存せしめる。常用高度は千米乃至三千米、主要裝備は旋廻機關  
銃一、小航空寫真機一組、無線裝備一式、要するに地上の第一線部  
隊に協力する爲の小型の飛行機で御座います。從來の方針に依りま

す。此の二つは分けて御座いませんが今度は斯ういふものを一つ研究したいといふ考へであります。

### 超重爆

其の次に申しますのは從來超重爆と申しまして秘密にして公開しない飛行機で御座います。之も始めましてから相當の年月が経ちまして第六勳機迄造つたのであります。が今の技術から考へますと已に時代遅れの感があるのであります。それで將來は今迄申しました重爆より遙かに性能良好なものとして遠距離にある重要施設の破壊若は震撼的威力を發揮する爆撃機にしたいと考へてゐるのであります。従て獨立的行動に適し自衛力を大にし成るべく輕快な運動の出来るやうに速度も増加したいと考へます。行動半径は標準爆弾量を搭載

しました時には一千二百斤とし別に行動及豫備の爲約五百斤の航續力を有せしめる。従來のは此の器材の研究方針に較つて居りませんので従來のを申上げます。従來のは行動半徑は一千斤、尙五百斤の餘裕を持たず。爆彈の搭載量が二噸、武装が機關砲一門、機關銃五其の他無線、寫眞裝備で御座います。發動機は八百馬力で發動機が四、速度が一千乃至三千米に於て約百六十斤といふ風に出て居ります。之を今申しました趣意に依りまして搭載爆彈量を一噸半に致しまして、さうして努めて其の速度を増し行動半徑を増加したいと考へてゐるので御座います。従來の一千斤に對して今度は一千二百斤の行動半徑にするので御座います。二百斤の増加で御座います。主要裝備之は旋廻機關砲一、旋廻機銃四、其の他無線、寫眞の裝備



で御座います。此の超重爆も大體の觀念は普通の重爆を改善しますと同じやうな觀念で更に其の大型のものを造る。努めて速くし努めて行動巨陸を多くし實際的の威力を發揮したい。さういふ考へて造つてゐるので御座います。それだけで御座いまして其の他の特殊の飛行機に關しまする研究方針は先申しました視察團の歸りました後に必要がありましたならば更に御改訂を願ひたいと考へてゐるので御座います。終り。

會 長 それでは一つ宛片附けて行きますせう。先づ重爆撃機に就て質問がありませんか。

之は敵と遭遇するさいふやうな危険の際に一層高空に於て行動したさいふことになりませぬ。さういふことをやれば行動半徑は減り

ますか。

牧野少將

減ります。

木下大佐

常體的にいへば油を減すか、途中から油を棄てるか、

之は全く私の常識的のことでありますが、最大限の速力を要求されてゐるのでありますから……。

岡田中佐

常用高度として求めてある所、普通其の邊迄は上れる

といふので計算を致しました。それより上空には油を減して餘計使つてゐる状態でありましたならば上ります。初めの間は上らない。併し常用高度と決められてある所は十分に行けると思ひます。常用高度と申しますのは二千乃至四千で此の間は確實に行ける、それが二千で進んで居つて四千の敵と打突つても何等變りはないのであり



ます。

會 長

但書の事を聞いてゐるのであります。

中川少將

之は四千米以上でも昇れるやうにするといふのであり

まして四千米以上昇つたら運動が出来なくなるといふのでなしにそれ以上昇つても行動が出来るやうにして置かうといふのであります

會 長

さうするに設計は初めから考へて置かなければならん

ですな……。

香積大佐

之は設計で計算した高度を申します。

駒村少佐

唯今のことに就て御説明致します。常用高度二千乃至

四千と御座います。其の中間をとりまして發動機の性能を最も良い所を出させ、又飛行機と致しまして一番良い性能が出るやうに總て

の設計が出来てゐる。其の上其の下は幾分宛悪くなるのであります。實用上からいつて二千乃至四千の間は殆ど問題にならない程度になる。更に此の範圍を擴大致しまして一方は低空に一方は五千米、或は六千米といふやうになりますと其の性能の開きが段々出て來るのであります。航線巨離に就て申しますと常用高度の二千乃至四千といふ範圍に於ては十分要求を満足するやうに設計してある飛行機では低空の方を考へました場合には段々航線巨離が減少して行くのであります。それは速度と航線時間の關係上速度も減りますし又燃料消費料の關係上航線時間の方も段々減つて來る現象になるのであります。然し高空の方は五千米、或は重量が減つて來る場合に於ては六千米といふやうな場合でも尙且つ行動し得るやうな場合がありま

すから其の場合に於ても發動機の馬力が減り巡航の速度は減つて参ります。油の消費量が減つて来るので航続距離が段々増へて来る。巡航速度と航続時間といふものを考へて航続距離といふことを考へますと却つて常用高度の二千乃至四千といふ所よりも増大する現象になるのであります。

會長 判りました。

重爆撃機に就て質問はありませんか。

質問がなければ意見を。

(発言者無し)

御意見もないやうでありますから重爆撃機は此の儘可決致します。

次は軽爆撃機に就て質問がありませんか。

質問もないやうでありますから御意見を願ひます。

(發言者無し)

御意見もないやうでありますから之も原案の儘可決と致します。

次は偵察機、質疑がありましたら……。

之は違つた所は單發動機のみとするところで、輕爆と殆ど同じやうなものですね。

中川少將 同じやうなものであります。恰度今の八八の偵察機と

同じやうな譯で裝備其の他……

會 長 裝備も瓦斯雨下裝置といふやうなことをするだけで外

はあまり違つて居らないやうですな。

牧野少將 殆ど差は御座いません。

清水大佐

偵察機は。

之は速度はどれ位迄出す見込でありますか。遠距離の

香積大佐

て居ります。

私から申し上げます。大體三百八十軒位の所を標準とし

清水大佐

列國のやつを見ますと大體三百から三百十か二十位しか出て居らないやうであります。さういふやうに出しても偵察に故

障はありませんか。

香積大佐

之は遠距離搜索を主任務と致しますから相當速度にも重きを置かなければなりません。尙偵察の場合には相當速度の低下範圍を廣くしなければなりません。

清水大佐

さういふことが出来るのでありますな。

香積大佐

之は或る範圍に於て可能であります。將來遠距離の偵察の目標を考へて見ますと非常に緻密な砲兵任務といふやうなものは違つて大縦隊の行進とか列車の運行とかいふやうな場合になつて來ます。さういふ偵察が有利ではないかと考へられる節がある。イカリ入では操縦者が偵察してゐるやうで同乗者はそれを通信し後方の警戒、自衛といふやうな點も考へられるのであります。斯ういふやうな研究も場合に依つてはやらなければならぬぢやないか、大體目度は附いてゐるのであります。細かい點迄の偵察は困難であります。速度の遞減が出来るやうになつてゐると思ひますが非常に乗出して見ずして飛行機を傾けて見れば見得る、現に私達は操縦者の方が曩の關係で同乗者よりも早く発見してゐるやうであります。



會 長

今の巡航速度はどの位になりますか。

香積大佐

唯今申しましたのは全速であります。が概略八割位に限られることが出来ると思ふのであります。之は發動機の種類に依つて大分違ひます。

會 長

小型偵察機の方は制限装置を付けてないで離着陸はどの位で出来ますか。

駒村少佐

駒村少佐申上げます。之は最大速度と巡航速度にも關係します。速度と離着陸は相關聯したもので御座います。速度の方を要求致しますと離着陸の性能を短縮することが出来ないのであります。一方荒天、天候の状況を考へますと、餘り離着陸の速度を下げますと荒天の際の着陸といふことに難點があるのであります。大

體私が唯今考へます所では二百米以下位の所ではどういふものであらうかと考へて居ります。之はもう一步といふやうな御要求がありますれば出来ると思ひます。其の際には二百米の滑走距離を限度として研究します。

會長　之は作戦部の方からも何か具體的な要求をしてあるんですか。

牧野少將　作戦部の要求は「第一線部隊と直接協同し之に必要な搜索指導連絡及砲兵協力に用ふ、小型機にして空地に於ける運動輕快にして特に戦線附近の輕易なる離着陸に適す。行動半径は二百軒を標準とし概ね一時間の餘裕を存せしむ、常用高度は一千米乃至三千米、主要裝備は旋廻機關銃一、小型寫眞機一、無線機一、」其

の通りで御座います。

會 長 質問がありましたならば……ないやうでありますから御意見を伺ひます。

(發言者無し)

御意見もないやうでありますから偵察機は此の通り可決と致します。次は超空爆撃機、之に對して質問がありませんか。

會社に試作を命じてからどの位で出來ますか。

中川少將 大體此の前のやつは前後推算して四年かきつて居りますから……。

會 長 今度は少し早いでせう。

中川少將 今度は早いでせう。目標はついて居りますから……。

然し少く共出て来る迄には三年は見て戴かなければならぬと思ひます。

牧野少將

此の前のは昭和三年の二月に決められて昭和六年の二月に完了して居ります。

會長

あれは焼けたんですがその儘で使へるんですか。

牧野少將

焼けましたが飛行機の材料はすつかり取換へて居ります。

す。

中川少將

此の前のはやつは發動機そのものは外國から買ひました

から最初の出方は割合早かつたのであります。

清水大佐

主要装備の中に機關砲といふものがありますがそれは

どういふ砲でありますか。

中川少將

機關砲の問題は今決めたくないと思ひます。技術本部に要求してありますが適確に定つて居りませんから機關砲を造ると

いふことだけに……。従て二十耗になるかそれはあさで……。

清水大佐

吾々の要求は砲といふことになつて居りますが。

中川少將

砲と機關銃兩方附けたいと思つて居ります。

清水大佐

普通の砲といふのはつけないんですか。

中川少將

機關砲も附けるんです。どういふ種類をやるか。二十

耗程度にするか三十耗にするか、さういふ問題はあさで一緒に研究したい。他の機關砲の審査を技術本部でやつて居りますからそれが出てから一緒に御審議を願ひます。

會

長

質問がないやうでありますから御意見を……。

御意見はありませんね。

(発言者無し)

ないやうでありますから原案の通り之は可決致します。

之で第一から第三迄全部原案の通り可決致します。

それでは之で會議を終ります。

(終)